

# 同窓会会報

高知県立大学看護学部

第19号

令和元年10月31日発行

〒781-8515 高知市池2751-1



## ごあいさつ

同窓会副会長 中野綾美



会報19号をお届けする時期となりました。この夏は、台風が次々と日本列島に上陸し、多くの方々が、被災されました。同窓生の皆様の地域は、どのような様子だったでしょうか。被災されました皆様に心よりお見舞いを申し上げますとともに、一日も早く、日常が戻りますように心よりお祈り申し上げます。

台風の合間をぬって、7月20日に第45回高知女子大学看護学会『人生百年時代の看護のSHIFT(シフト)』を開催し、高木廣文先生(天使大学副学長)に「人生百年時代と健康格差-特に「死」の健康格差」と題して基調講演を頂いた後に人生百年時代を見据えた7つのワークショップにおいて高知女子大学時代の卒業生・修了生、高知県立大学の卒業生修了生がファシリテーターや話題提供者、参加者となり、地域の看護職者の皆様や教員とともに、活発な意見交換が行われました。夜は、新しくなった永国寺キャンパスの生協食堂を会場として、高知県立大学看護学部同窓会総会を開催し、令和元年度の事業として、昨年度よりも学生支援に力を入れることが承認されました。キャンパスツアーでは「校舎がオシャレ。設備が整っている」「私の学生時代は、生協食堂はプレハブだった」など、昔を思い出しながら、楽しい時間を過ごしました。懇親会は、山崎智子先生(3期生)の乾杯、南裕子先生(11期生)への感謝の花束贈呈、箏曲部の学生さん達(看護学部67期生)の演奏と、卒業生・修了生・在学生・教員との、美味しい楽しい時間、お互いに力強くなる時間となりました。7月21日には看護学部同窓会大学院部会の「看護開発研究会」を開催することができました。深井喜代子先生(東京慈恵医科大学教授・学部36期生)に「エビデンス創出研究と実践へのフィードバック」と題して基調講演を頂きました。第2部は、「博士論文における研究方法の開発」についての藤代知美氏(博士13期生)、井上直子氏(博士14期生)、武島弘子氏(博士16期生)による発表・討議を通して、大学院在学生、修了生、教員が互いに学びあうことができました。最後に、中山洋子先生、6年間母校に帰ってきてくださって、教育者として研究者としてチャレンジし続ける生き方を、私たち後輩に教えてください、心から感謝申し上げます。本当に、ありがとうございました。身の引き締まる思いです。同窓生のネットワークは、長年にわたって皆で作りに上げた財産です。ぜひ、皆様、看護学部同窓会で、高知女子大学看護学会でお会いしましょう。

## 主な内容

- ①同窓会副会長ごあいさつ
- ②高知県立大学でお世話になった先生からのメッセージ
- ③ようこそ先輩！
- ④令和元年度同窓会総会・懇親会報告
- ⑤第45回高知女子大学看護学会報告
- ⑥看護開発研究会
- ⑦同窓会だより



## 高知県立大学でお世話になった先生からのメッセージ

### 六年間をふり返って

16期生 中山洋子

平成24年度に採択された博士課程教育リーディングプログラム・災害看護グローバルリーダー養成プログラム(DNGL)の事業(文部科学省)は、平成30年度で終了した。もちろん、大学院看護学研究科共同災害看護学専攻における災害看護グローバルリーダーの養成は継続されているが、高知県立大学を責任大学とし、5大学で共同を組んで開始した7年間の助成事業が終わったということである。平成31年3月に5年間の博士課程を修了した学生は4名で、修了のお祝い会は、この事業が終わったことの区切りともなった(写真)。このプログラムの特任教授として6年間仕事をさせていただいた私も退職となった。

ふり返ってみれば、東日本大震災を福島県立医科大学看護学部の在職中に経験し、平成25年3月に定年退職した私は、4月から母校で立ち上がったこのプログラムに教員として参加することになった。野嶋佐由美先生から声をかけていただいた私は、世界で初めての試みにチャレンジできる、それも災害ということで迷いはなかった。60歳後半の頭脳で、苦手な英語に取り組み、教務や入試の業務を担うことは容易ではなかったし、周囲の人々にはたくさんの迷惑をおかけしたのだと思うが、本当に好きなように教育を展開させていただいた。乗り越えるべき障害は、自分の能力であるが、年齢を重ねることはそれを克服するエネルギーが少ないということを実感せざるを得なかった。

私が看護教育に携わるようになったのは、南裕子先生に声をかけていただき就職した聖路加看護大学(現聖路加国際大学)からである。聖路加看護大学在職中に南先生に推薦していただき、Oregon Health Sciences 大学大学院看護学博士課程に留学し、その後、看護教育に本格的に取り組むようになった。30年余りの教員生活の最後の2年を高知県立大学で再び南先生とともに机を並べて仕事をさせていただく機会に恵まれたことは幸運としか言いようがない。教員生活の中で私が最も大事にしてきたことは自由に豊かに、そして自律的に学ぶということであった。高知女子大学での4年間の学生生活は、物理的環境としては決して恵まれたものではなかったが、学生として個を大事に育ててもらったという感じは体に染み込んでいる。福島県立医科大学で看護学部の開設準備をしていたときも、貧しい看護教育はしないということを肝に銘じてきた。私の教育の集大成ともなったDNGLでの仕事は、自由に贅沢に行かせていただけたと感謝している。5大学の教員間での考え方や意見は必ずしも一致せず、各大学の文化も制度も違う中での教育は、調整に時間を要するものであったが、大学間の垣根を越えてグローバルリーダーを教育できる醍醐味はあった。このようなユニークな教育には、そんなに簡単には出会えないであろう。

令和になった5月に私が高知県立大学を退職したということで衛生看護学科第16期生が集まってくれた(失礼を欠くことが多い私であるが、覚えてくれていたクラスメートには感謝の言葉しかない)。

その時に、本年度3月が卒業から、私たち16期生にとっては、50年目にあたることを知った。卒業時には何も考えていなかった同窓生、母校ということのつながりを改めて心地よく感じた。約20人のクラスメートであったが、卒業を待たずに退学した者、病に倒れずでに他界してしまったクラスメートもいるが、十数人が集まった。最近では1年に1回、半年に1回と集まり、その度に、クラスメート間の距離は縮まり、学生時代に戻っていく。クラスメートのしぐさ、ものの言い方、ふるまいを見ると50年たっても人は変わるものではないとつくづく思う。お互いの老いを確認し合いながら、この関係を持ち続けられたらいいと思う。令和元年の“いのしし年”は、私にとっても1つの区切りの年になった。これからは18歳まで過ごした静岡県の故郷で暮らすのが、遠くなくても母校は母港、人生の旅の中で、また寄りたいたいと思っている。



# ようこそ先輩！

小笠原麻紀さん(修士10期生)

第10期生として大学院修了後、高知大学医学部附属病院に再就職して2010年に精神看護専門看護師の資格を習得しました。精神科・身体科病棟、緩和ケアチームの経験を得て、2019年4月より精神科病棟師長に昇任して再び精神科病棟ではたらいています。

【管理者として】

現在、病棟は認知症患者が増加しているため認知症への看護ケアの質の向上とともにリスクマネジメント・アセスメントを行い精神科で起こりやすい医療事故防止対策を再検討することを師長1年目の目標として病棟看護師とともに取り組んでいます。また身体行動制限(拘束・抑制)に対して、看護部・医療安全管理部とでワーキンググループを立ち上げ、病院における身体行動制限の基準・手順の見直しや実態調査を始めており、行動制限の低減につなげていく活動を実践していきたいと考えています。しかしながら実情はスタッフの勤務・健康管理や病床管理、組織の会議・委員会活動などに携わることで日々過ぎていく状況であり、時々振り返っては役割を再認識し、看護師長として改革したいと考えていることに立ち返るようにしています。医療経済に対する具体的な実践や、スタッフのキャリア開発や学生実習への支援など、まだまだ知識も行動も不十分ではありますが、自分を見失わないように役割行動を取っていきたいと思います。

【専門看護師の活動】

精神科リエゾンチームが2019年5月より立ち上げとなり、医師、心理士とともに週1回チーム活動を実施しています。限られた時間ですがダイレクトケア、コンサルテーションを中心とする機能を用いて実践しています。約半年経過しましたが、チーム内・ラウンドする部署のスタッフとの調整をはかることが看護師として必要な役割であること、リエゾンチームのアセスメントやケアプランを記録で示すことの重要性を感じています。また実績をデータ化して活動内容が可視化できるようにしていきたいと思っています。

【プライベートについて】

2019年からマラソンを始め、ひとりで黙々と走ることもよし、友人と大会を兼ねて旅行をすることもよし...自分のペースのできるので私の性格に合っているようです。ワーク・ライフバランスをはかり元気に生活することを大切にしています。



尾谷 智加さん(修士13期生)

働きながら学ぶことはとにかく時間がなくて大変でした。修士論文作成に取り組んでいる最中に、あの東日本大震災が起こり赤十字看護師として現地に入った事は忘れられない出来事です。

私は長い事、救急領域で突然の発症や事故で生命危機の状況にある患者とその家族に向き合ってきました。3年前に突然母を失い、危機的状況の当事者家族になってしまいました。残された高齢の父の介護の現実もあり出口のないトンネルの中で、経験したことのない喪失感と不安、後悔や懺悔、表現のしようのない感情の中で苦しみながら、それまで出会った多くの家族の心情に思いを巡らせ、私は何か出来たつもりではないかと心底考えさせられました。けれど辛かったこの喪失体験も、介護難民の経験も看護師としての新たな知識と感性になった事も事実です。

看護師としての仕事人生の大半は、救命救急センターの中でしたが、2019年5月、病院の移転に伴い新設された女性病棟が現在の私の職場です。女性に優しい静かで安心して療養していただける環境を提供する病棟は県下初の試みです。主科は乳腺外科、婦人科ですが、科を越えて柔軟に対応しています。なかでも女性がん患者が社会生活を送るなかでのアピランスケアを充実させたいと、スタッフと共に新たな取り組みを始めたところです。

いま向き合っているのががんを告知された患者とその家族です。看護師人生も終盤に差し掛かり、救急とはまったく違う時間軸のなかで、あらためて生きるということ、誰もいつか逝くのだということを考えています。私たちが会える人は、みんな誰かの大切な人です。誰かの大切な人をお預かりしていることを忘れず、この病院で良かったと思っただけのように、そんな看護を次世代につなぎたいと思っています。



# 令和元年度 同窓会総会報告

令和元年度看護学部同窓会総会が、7月20日(土)に開催されました。本年度の総会は、高知県立大学永国寺キャンパスを会場に、県内外から70名が参加して行われました。



## 議事

議事進行にあたり、議長に田原佳奈氏(学部45期、修士19期)を選出し、次第に則って審議されました。最初に庶務担当の池添志乃氏より、平成30年度同窓会活動報告があり、会計担当の川上理子氏より、平成30年度決算報告があり、承認されました。引き続き、令和元年度活動計画案および令和元年度予算案、役員について、それぞれ提案があり承認されました。

## 平成30年度活動報告

1. 会議
  - 1) 総会の開催
  - 2) 役員会の開催
2. 事業および活動
  - 1) 講演会の開催(高知女子大学看護学会との共催)  
テーマ  
「変動する世界の中で『ケアとキュアの融合』を刷新する」  
講師: 渡邊知映先生  
(上智大学総合人間科学部看護学科 准教授)
  - 2) 懇親会
  - 3) 会報発行
  - 4) 学生支援、同窓生活動支援
  - 5) 高知女子大学看護学会への活動支援
  - 6) 緊急奨学金 該当なし



## 会次第

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 議長選出
4. 議事
  - 1) 報告事項
    - (1) 平成30年度活動報告
    - (2) 平成30年度決算報告
    - (3) 平成30年度会計監査報告
  - 2) 審議事項
    - (1) 令和元年度活動計画案
    - (2) 令和元年度予算案
    - (3) 令和元年度同窓会役員について
5. 閉会



## 令和元年度活動計画

1. 会議
  - 1) 総会の開催
  - 2) 役員会の開催
2. 事業および活動
  - 1) 講演会の開催(高知女子大学看護学会との共催)  
テーマ  
「人生百年時代と健康格差」  
講師: 高木廣文先生  
(天使大学副学長/看護栄養学部看護学科 教授)
  - 2) 懇親会
  - 3) 会報発行
  - 4) 高知女子大学看護学会への活動支援
  - 5) 学生及び同窓生活動への支援
  - 6) 緊急奨学金貸与
  - 7) ネットワーク強化

同窓会役員名簿(令和元年度)

役員名	氏名	*1:看護学部長 *2:看護学会名簿管理係兼	卒業・修了期	所属
会長	梶原和歌		10期生	近森会 顧問
副会長	藤田佐和*	1	28期生	高知県立大学看護学部
	中野綾美		27期生	高知県立大学看護学部
書記	田鍋雅子		38期生・修士13期生・博士18期生	高知医療センター看護局
	山中福子		修士7期生	高知県立大学看護学部
会計	川上理子		35期生・博士9期生	高知県立大学看護学部
	西内舞里		46期生・修士12期生	高知県立大学看護学部
会計監査	野田真由美		34期生	高知市保健所
	矢野智恵		38期生・修士1期生・博士17期生	高知学園短期大学
庶務	角谷広子		25期生・修士5期生	芸西病院看護部
	池添志乃		34期生・修士2期生・博士1期生	高知県立大学看護学部
	川本美香*	2	修士13期生・博士18期生	高知県立大学看護学部

平成30年度 会計報告

○収入の部 (平成30年4月1日～平成31年3月31日)

費目	予算額	決算額	差引	備考
前年度繰り越し	13,515,544	13,515,544	0	
平成30年度会費	1,500,000	1,440,000	△60,000	新年度学部82名のうち75名(91.5%) 新年度大学院生(前期17名、後期2名)の うち12名納入(78.9%) 前年度まで未納の学部生・大学院生在 学生:9名
寄付金	200,000	137,845	△62,155	1口1,000円×16口(のべ15名)+¥845
奨学金返還	245,575	270,000	24,425	
利息	70	59	△11	
収入合計	15,461,189	15,363,448		

○支出の部

費目	予算額	決算額	差引	備考	
会議費	30,000	24,658	5,342	役員会等	
事業費	同窓会会報発行費	400,000	400,000	0	会報発行2回
	高知女子大学看護学会支援費	300,000	300,000	0	高知女子大学看護学会への活動支援費
	同窓会総会・懇親会運営費	100,000	83,040	16,960	会場費、お祝い会支援費など
	学生および同窓生活動支援費	400,000	236,363	163,637	1件10万円以内 ①第25回日本家族看護学会抄録集広告掲 載料 ②130年度看護開発研究会講師謝金 ③国際交流(エルクズ大学短期派遣研修)活 動支援 ④国際交流(インドネシア2大学短期派遣研 修)活動支援
	緊急奨学金費	535,800	0	535,800	
事務費	役務費	370,000	325,409	44,591	郵送料、切手、はがき代、ホームページ管理 費等
	印刷費	200,000	83,400	116,600	封筒印刷等
	消耗品費	100,000	41,683	58,317	ファイルほか事務用品、A4用紙、宛名シ ール等
	報償費	240,000	147,060	92,940	名簿管理、書類発送に関するアルバイト料等
予備費	12,785,389	15,000	12,770,389	終身会費二重払い返却分	
支出合計	15,461,189	1,656,613	13,804,576		

令和元年度への繰り越し金=収入の決算額 15,363,448円 - 支出の決算額 1,656,613円 = 13,706,835円

監査報告書  
高知県立大学看護学部同窓会会長 様

監査期間 平成30年4月1日～平成31年3月31日

監査結果 証拠書類並びに諸帳簿を資料として監査を実施した結果、  
正確かつ適正に処理されていることを認めます。

平成31年4月22日

会計監査

野田真由美  
矢野智恵



令和元年度 予算案

○収入の部 (平成31年4月1日～令和2年3月31日)

費目	予算額	備考
前年度繰り越し	13,706,835	平成28年度在学(学部、大学院)の終身会費を含む
令和元年度会費	1,500,000	15,000円×100名=1,500,000円 学部生:82名 大学院生:18名(博士前期課程15名, 博士後期課程3名)
寄付金	200,000	1口1,000円×200口
利息	60	
収入合計	15,406,895	

○支出の部

費目	予算額	備考	
会議費	30,000	役員会等	
事業費	同窓会会報発行費	400,000	会報発行2回
	高知女子大学看護学会支援費	300,000	高知女子大学看護学会への活動支援費
	同窓会総会・懇親会運営費	100,000	運営・謝品等
	学生および同窓生活動支援費	600,000	1件あたり上限10万円
	緊急奨学金費	535,800	
小計	1,935,800		
事務費	役務費	370,000	郵送料、切手、はがき代、ホームページ管理費等
	印刷費	200,000	封筒印刷等
	消耗品費	100,000	ファイルほか事務用品、A4用紙、宛名シール等
	報償費	240,000	名簿管理、書類発送に関するアルバイト料等
小計	910,000		
予備費	12,531,095		
支出合計	15,406,895		

# 懇親会

令和元年度看護学部同窓会懇親会は、新しくなった高知県立大学永国寺キャンパス生協食堂を会場に開催されました。



山崎智子先生の乾杯のごあいさつ

高知県立大学箏曲部4名の学生さん  
によるお琴の演奏



サプライズで花束贈呈



同級生が  
集まりました



テーブルスピーチ



今年の司会

## キャンパスツアー

久しぶりに歩いて、  
大学生生活に想いを  
馳せながら..



### キャンパスツアーに参加して（34期生 野田真由美さん）

私が卒業したのは、当時の家政学部看護学科が永国寺の南別館にあった昭和63年3月です。永国寺キャンパスが改築されているのは知っていたものの、建物の中まで見る機会にはなかったので、今回のキャンパスツアーを楽しみに参加させてもらいました。

建物の内装はシンプルだけどオシャレな配色で、ホテルのように広い通路に教室の中が見える透明の壁、あちこちにあるフリースペースのイスやテーブルも個性的ですごくオシャレで、高知の大学もこんなに素敵になってるんだと感動しました。また、全ての机でパソコンが使用できるなど様々な最新機器を使って学習しやすい環境整備がされていて、時代の流れを感じるとともに、今の学生をうらやましくも思いました。

図書館はちょうど休館で見学できなかったのが残念ですが、また機会があれば利用してみたいです。図書館や一部の教室が高知工科大学との共用となっているのも色んな面でいいなと思いました。学生時代にお世話になった学食も場所が変わりオシャレになっていて、次はぜひ学食で食事をしてみたいなと思ったことです。現役の学生の皆さんには、この素晴らしい環境を生かしながら、高知県立大学としての新しい歴史を作っていくことを期待しています。

## 第45回 高知女子大学 看護学会の報告

令和元年7月20日に『人生百年時代の看護のSHIFT(シフト)』をテーマに、第45回高知女子大学看護学会が高知県立大学池キャンパスにて開催されました。  
当日は卒業生・修了生をはじめ県内外の看護職者153名のみなさまの参加をえて、活気ある学術集会となりました。

### 講演

高木廣文先生のご講演の様子



講演会場の様子



天使大学副学長の高木廣文先生を講師に「人生百年時代と健康格差—特に「死」の健康格差」と題し、ご講演いただきました。

講演は、健康格差の問題が経済格差に起因するものとして対策が試みられていることが紹介され、果たしてそれだけで、格差の根本的な解決に至るのだろうかという問いから始まりました。さらに死に焦点をあけると、スピリチュアル、すなわちキリスト教的な考え方が中心となり論じられていますが、日本人にとってのスピリチュアルとは如何なるものなのかと問いが進み、四国にも関連深い弘法大師空海 of 思想の解釈が語られました。1200年以上前に執筆された空海 of 思想の新しさに驚き、私たち日本人の中にあるスピリチュアルを考えさせられる講義でした。

講演後のアンケートでも、「日本人として日本の人々の宗教的な思いや「信仰」と自覚していなくても根底に流れているものなど、援助専門職として自分自身の視野を広げることの重要性に気づかされました。又、そういった看護師を育てる必要性を感じました。」「普段聞くことのできない宗教についての話題にふれることができ興味深かった。患者—看護師間の宗教観について、スピリチュアルについての看護師の素養について考えさせられた。」「私にとって、全く新しい切り口の話で新鮮でした。」などの意見が寄せられた。



## ワークショップ

## 会場の様子

ワークショップ I



ワークショップ III



ワークショップ VI



ワークショップ VII



午後からは7つのワークショップを開催し、70名が参加されました。ワークショップでは、修生や卒業生、教員の話  
題提供者から、実践の体験をもとに各テーマに関する報告や発表がされ、参加者との意見交換が行われました。

ワークショップ I : 人生百年時代に向けての仕組みづくり

ワークショップ II : 人生百年時代 老年期の多様な生き方を支える

ワークショップ III : 病と共に生きる百年

ワークショップ IV : 人生百年時代を担う子どもの力

ワークショップ V : 人生百年時代のライフキャリア

ワークショップ VI : 人生百年時代 新しいアプローチの開発

ワークショップ VII : 人生百年時代のキャリアデザイン

## 総会

大学の生協食堂にてランチョン形式で行われた総会には、48名の学会員が参加しました。議長には学部38期生 田鍋雅子氏  
と学部47期生 大黒美渚氏が選出され、平成30年度の事業報告、会計決算報告、会計監査報告が行われ、いずれも承認  
されました。審議事項として、本年応募があった1名を奨学生とすることが提案され承認されました。続いて、令和元年度事業  
計画案について第45回学会と公開講座4回の開催について提案がなされました。学会員から公開講座について看護学部との  
共催や次のテーマの要望などの意見も出され、いずれも承認されました。令和元年度予算案についても承認されました。

# 看護開発研究会

看護開発研究会は、高知県立大学看護学部同窓会大学院部会の活動として2015年度より毎年、高知女子大学看護学会の翌日に開催しています。この研究会の目的は、大学院看護学研究科修了生と在学生在に学術的なネットワーク形成の場を提供し、相互に研鑽を深めるとともに看護学の新たな知の創造を図ることです。今年度は7月21日(日)に開催し、修了生、在学生在、並びに教員、合わせて56名が参加しました。

『基調講演』では、東京慈恵会医科大学教授 深井喜代子先生(学部36期生)より「エビデンス創出研究と実践へのフィードバック」というテーマで、エビデンスを創出する看護研究の意義、生理学と看護学を融合した研究方法によるエビデンス創出の実際、創出したエビデンスを活用した看護実践等について、豊かな研究経験と知見をもとにご講演いただきました。



第二部の『演題発表』では、「博士論文における研究方法の開発」というテーマで、藤代知美氏(博士13期生)から「質的研究における課題と工夫」、井上直子氏(博士14期生)から「量的研究における課題と工夫」、武島弘子氏(博士16期生)から「生理学的研究における課題と工夫」について、博士論文に取り組んだご自身の経験を振り返りながら、ご発表いただきました。質疑応答では、特に研究方法上の課題への対応に関する質問が多くあり、基調講演講師の深井先生からの助言もいただきながら、皆で考え、深めていくことができました。



ご参加いただいた皆様方との活発な意見交換も行いながら看護者が行う看護研究の価値や魅力、研究者として実践知に還元できる新たな看護研究の創造と研究による実践の開拓を担う重要性を実感できる貴重な機会となりました。同窓会の皆様のご支援に深く感謝申し上げますとともに、次年度も多くの皆様のご参加をお待ちしております。





## 私たちの同窓会



### ～28期生編～

令和元年7月13日、28期生の同窓会が開催されました。14名の同級生が集まり、山崎智子先生、山崎美恵子先生も参加してくださいました。

卒業以来38年ぶりの再会もあり、少し緊張して行きましたが、はりまや橋近くの会場に入ると懐かしい顔が待ち構えていました。名前を呼ばれたとたんに、女子大生に戻り、先生方と古い南舎で学び、実習したころの思い出話をするとすっかりあの頃の“私”に戻っていました。一人ひとり現状報告をしました。還暦を迎える頃となっていますので、それぞれの人生行路には、仕事や生活での様々な変遷や、山あり谷ありの物語が沢山ありました。誰の人生についても共感し合えるのは、いつも一緒だったからなのか、看護を学んだからなのか、などと感じ入っていたところに「もっと美人やったがに、その顔どうしたがあ」と懐かしい土佐弁でやられてしまいました。職場では肩に力が入っている“私”に、この鋭い指摘は心地よく入ってきました。同級生ならではの愛情深い言葉が嬉しく、楽しい時間でした。

昭和から平成を飛ばしての再会でしたが、今回は日程が合わなかった皆さんにも会えますよう、次回開催の計画を約束しました。(28期生 中村可奈)



### ～34期生編～

2019年7月13日に、高知女子大学家政学部看護学科34期生の同窓会を高知で開催しました。卒業したのが昭和63年3月で、今年平成31年が令和元年に変わり、ちょうど卒業後丸31年が経ちました。12名の同級生が高知県内をはじめ、九州や関東・関西から集まりました。当初出席予定だった学年担当の松本女里先生や他数名が欠席となったのは残念でしたが、久しぶりに顔を合わせた同級生とあつという間に昔の学生時代に戻ったように楽しくおしゃべりをしました。

出席者は現在の仕事や生活のことを報告しあいながら、なつかしい思い出話に花が咲きました。34期生の同窓会では、出欠と一緒に近況を返信してもらい、直筆のままコピーして名簿として配布しているので、同窓会に出席できなかった人のことも、名簿の近況を読んで話題にしながら話をしました。みんなそれぞれに仕事や家庭で頑張っている話が聞けて嬉しかった、自分も今まで以上に頑張ろうと思えたといった感想が寄せられました。また会える日まで元気でいようね～と次回を楽しみにしています。(34期生 野田真由美)



第19号では、28期生、34期生の同窓会だよりをお寄せいただきました。みなさまからの同窓会だよりをぜひ、お寄せください。お待ちしております。

## ご寄付をいただいた方

下記の皆様より寄付をいただきました。  
誠にありがとうございます。  
(敬称略 令和元年10月23日現在)

平成30年度卒業生 東近千代子様(21期生)  
一同様 武田明子様(21期生)  
岡田 湊子様(7期生) 漢那浩子様(11期生)  
西山 純子様(34期生) 山田 薫様(26期生)  
花川千津子様(14期生) 他、2名の方  
梶原宣子様(9期生)



## 看護学部・看護学研究科の活動

看護学部では、毎年、各専門領域ごとに卒業生、修了生、また地域の専門職者の方々と学びを共有する場として看護相談室を開催しています。

今年度の予定が決定しています。  
ぜひ、ご参加ください。

高知県立大学のホームページにも詳細が記載されていますので、ご覧下さい。



## 高知県立大学看護学部

### 看護相談室

看護相談室は、12の専門領域が、高知県の保健・医療・福祉に従事する皆様方と共に、ケアの質を向上させることを目的としています。

#### 家族看護学

\* 長戸研究室 ☎ 088-847-8708

I. ケア検討会 6/27(木),12/12(木) 18:30~20:30 II. 交流会 9/14(土)  
III. リカレント教育 8月を除く毎週第3金曜日(修了生対象)18:30~20:30

#### 精神看護学

\* 田井研究室 ☎ 088-847-8723

I. ケア検討会 6/20(木),9/19(木),12/19(木),3月開催予定 19:00~21:00  
II. 交流会 6/8(土)名古屋市内 III. リカレント6/22(土)西部地区研修会  
(日本精神科看護協会高知県支部との共催)

#### がん看護学

\* 藤田研究室 ☎ 088-847-8704

I. ケア検討会 6/15(土),10/22(火・祝),2/15(土) 13:00~15:00 D220  
II. 交流会 2/22(土)  
III. リカレント教育 9/28(土),11/23(土・祝) 12:30~16:30

#### クリティカルケア看護学

\* 大川研究室 ☎ 088-847-8703

I. ケア検討会 6/1(土),11/2(土) 13:30~15:30  
II. 交流会 6/15(土)(日本クリティカルケア看護学会終了後:大分県)

#### 慢性看護学

\* 内田研究室 ☎ 088-847-8720

I. ケア検討会 9月頃,12月頃 (決定次第、HP等でお知らせします)

#### 小児看護学

\* 中野研究室 ☎ 088-847-8710

I. ケア検討会(修了生を対象とした事例検討会) 7月,11月,2月  
II. 交流会(修了生の会) 8/3(土)札幌  
III. リカレント教育(地域看護職者対象) 11月  
IV. その他 赤ちゃん同窓会 10/20(日)

#### 母性・助産看護学

\* 嶋岡研究室 ☎ 088-847-8707

II. 交流会 10/4(金) III. リカレント教育 11/8(金)18:00~20:00

#### 地域看護学

\* 時長研究室 ☎ 088-847-8715

I. ケア検討会 6/24(月),7/25(木),12/17(火),2/7(金) 13:30~16:30  
II. リカレント教育 6/14(金),8/6(火),11/7(木),12/20(金)13:30~16:30

#### 在宅看護学

\* 森下研究室 ☎ 088-847-8709

I. ケア検討会 6/12(水),9/11(水),12/11(水) 18:30~21:00

#### 老人看護学

\* 竹崎研究室 ☎ 088-847-8705

I. ケア検討会 6/11(火),11/12(火) 18:30~21:00

#### 看護管理学

\* 久保田研究室 ☎ 088-847-8714

I. ケア検討会 6/21(金),10/4(金),1/10(金) 18:30~21:00  
II. リカレント教育・交流会 11/9(土)18:00~21:00

#### 災害看護学

\* 山田研究室 ☎ 088-847-8716

未定(決定次第、ホームページ等でお知らせします)

## 寄付のお願い

同窓会への寄付のご協力をよろしくお願いいたします。  
寄付金は、同封の振込用紙にてお願いします。ホームページでもご覧いただけます。  
ご不明な点はいつでもお問い合わせください。



編集後記  
日本各地で自然の脅威を感じるような台風、大雨の大きな災害が発生し、今も避難生活を余儀なくされている方も多くいらっしゃると思います。被害にあわれた方には心からお見舞い申し上げます。  
今年の同窓会懇親会は永国寺キャンパスで開催されました。新しいキャンパスに時代の流れを感じつつ、昔の面影を重ねながらのキャンパスツアーとなりました。  
表紙写真は、永国寺キャンパスの「詩の翼」というモニターです。昔の体育館の辺りに建てられています。ぜひ、高知へ来られた際にはお立ち寄りください。  
同窓会会報も第19号を発刊することができました。同窓会ご意見やご感想もぜひお寄せください。  
(池添・川本・西内)

### 事務局

〒781-8515 高知市池2751-1 高知県立大学看護学部  
Fax: 088-847-8750

### ホームページアドレス

高知県立大学  
<http://www.u-kochi.ac.jp/>

高知県立大学看護学部  
<http://www.u-kochi.ac.jp/~kango/>

